

二三九一番

玉たまかきる 昨日きのふの夕ゆふへ 見みしものを 今日けふの朝あしたに  
恋こふべきものか

二三九二番

なかなか 見みざりしよりも 相見あひみては 恋こひしき  
心こころ 増まして思おもほゆ

二三九三番

玉たま梓ほこの 道行みちゆかずあらば ねもころの かかる恋こひ  
には あはざらましを

二三九四番

朝影あさかげに 我あが身みはなりぬ 玉たまかきる ほのかに見み  
えて 去いにし見故こゆゑに